



研究所日記

海外からの技術研修員の

環境保全研究所研修体験

技術研修員 南保 アルベルト 勝博

私は「海外からの技術研修員」としてブラジルから来た南保アルベルト勝博と言います。6月17日から11月27日まで長野県環境保全研究所で研修を受けます。卒業した大学では食肉と食肉を加工した食品の研究をしていました。母国の河川の水質や土壌をきちんと管理し安全な食物を作ることを目標に研修に来ました。

来日してまず驚いたのは、昼間の明るい時間が長いことです。湿度も高く生活するのは楽です。川の中のゴミは本当に少ないと思いました。ただ、町の中に植えられている木はブラジルの方が多いと思います。これはブラジルでは家の前に木を植えることをルールで決めているからだと思います。来日する前、厳しい生活を覚悟していましたが、研究所のみなさん、また、研修以外の場で触れ合うみなさんも予想以上に親切で優しくありがたく思っています。

研究所での研修は当初、食品加工工程で出る廃棄物の環境に及ぼす影響の研究を希望していました。でも、より幅広い研修を受けることになり、かえってよかったですと思います。廃棄物処分場の採水や白馬村の八方尾根に登って、溜まった酸性雨を回収する経験もしました。

研修を受けていて困ったことは、日本語の化合物名を理解することです。自分で、化合物名を日本語とポルトガル語であらわした表を作成しました。

母国に帰って研修の成果をどう活かすか真剣に考えています。1つは環境教育です。私は母国では予備校で化学を教えるボランティアをしていました。私が教えていたのは、食べる物にも不自由している人たちで、その人たちに環境教育をしたいと考えています。それと、分析をする研究室のある会社へ就職をしたいと考えています。



食品中の発色剤を検査する南保さん

お知らせ

環境保全研究所公開セミナーを開催します

研究所では、調査研究の成果や業務内容を一般の方にわかりやすくお知らせするために公開セミナーを開催しています。今年度2回目のセミナーを飯田市美術博物館と共催で開催します。南信州のホットな自然情報をギュッとつめてお届けします。是非ご参加ください。

テーマ：「自然ワクワク南信州～変わりゆく山と里～」(予定)

日時	平成22年2月7日(日) 13:00～16:00
場所	飯田市美術博物館 講堂 (飯田市追手町2丁目655番地7)
報告内容	南信州に特徴的な自然、ジオパーク、野生動物被害、生態系を考慮した里山整備など



安曇野市での公開セミナーの様子  
(平成21年11月7日)

編集後記

- 31号をお届けします。今回の内容はいかがでしたでしょうか。
- 本誌は、当研究所の活動や長野県の環境保全及び保健衛生に関する情報をわかりやすく提供することが目的です。お気づきのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。(編集担当：企画総務部)

次号の予告

次号は2月に発行予定です。「最近の話題」「研究所日記」等を掲載予定です。